

「転倒災害の防止」

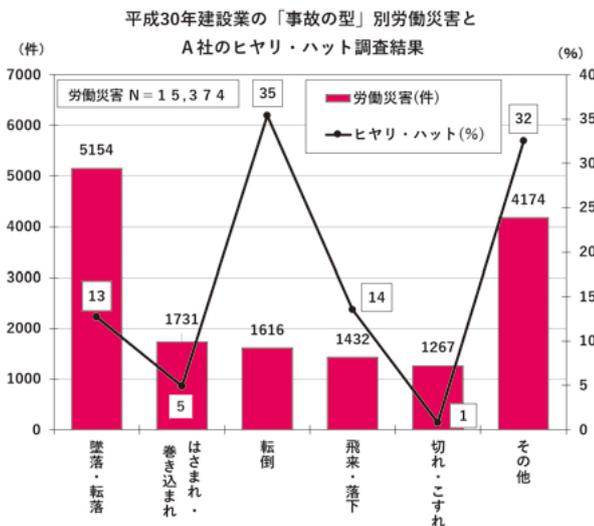
CSP労働安全コンサルタント 二階堂 久

転倒災害の3つのパターン

読者の方は回答出来たでしょうか。

転倒災害の典型的な3つのパターンは次の3つになります（参照：職場のあんぜんサイト）。

- つまずき（図表2、3）
- 滑り（図表4）
- 踏み外し（図表5）



(図表1)

図表1は、棒グラフに平成30年建設業の「事故の型」別労働災害の件数を示し、折れ線グラフにA社のヒヤリ・ハット調査結果の「事故の型」別割合を示しています。

労働災害による死傷者数は、「墜落・転落」が最も多く、3位の「転倒」より3倍多く発生しています。A社のヒヤリ・ハットは、「転倒」のほうが「墜落・転落」より3倍多いというまったく逆の調査結果でした。

すべての会員企業に当てはまるとは限りませんが、「転倒」災害になりかねなかった事例がたくさん存在するということは言えると思います。

ここで、「転倒」とは人がほぼ同一平面上で転ぶこと、つまずき、または滑りによって倒れることを言います（参照：職場のあんぜんサイト）。

「STOP！転倒災害プロジェクト」は2015年から始まり、ほぼ5年が経過しました。講演や安全教育の場で受講者に『転倒災害の3つの典型的なパターンは何でしょうか』と質問すると、元請会社や下請会社を問わず、ほとんどの方は回答出来ません。この機関誌の



(図表2)



(図表3)

図表2は、段差と言えないような敷き鋼板でもつまずきます。車両系建設機械や移動式クレーンが載るような箇所では段差を発生させないための固定が必要です。図表3は、鋼板の厚みにテーパを付けた工夫です。つまずきの対策は凹凸の解消や資材の整理整頓が有効です。



(図表 4)

図表 4 は、水洗いする箇所やオイルを扱う箇所は滑りやすくなります。清掃の頻度を増やしたりオイルマットを活用する等の滑る原因の除去が、滑りの対策として有効です。



(図表 5)

図表 5 は、床面に足を着く際の階段の踏み外しが一般的ですが、ステップ間隔を異なって設置すれば当然のように踏み外します。参考として、移動はしごの踏み機は、25~35cmの間隔で、かつ、等間隔に設けられていることが望ましいとされています(安発第100号、昭和43年6月14日)。

建設現場で対策を考える場合は、ただ単に転倒災害防止とはせず、上記の3つの中から対策を考えるようにしてください。

映像、PPTや行政取組の活用を

現場作業員の方に効果的な安全教育のツールは映像です。文字がたくさん記載された資料より、百聞は一見にしかず、です。

職場のあんぜんサイト(厚生労働省)にある「STOP! 転倒災害プロジェクト」の中に、建設業ではありませんが、参考になる視聴覚教材や映像教材があります。

災害防止協議会(安全衛生協議会)や安全大会などで活用してください。

また、このサイトには転倒災害の典型的な3つのパターンを分かりやすく説明したパワーポイントが掲載されていますので、ダウンロードして活用してください。

行政が主唱している転倒災害の取り組みを2つ紹介します。

静岡労働局「ぬかづけ運動」

転倒リスクの高い場所を表現(注)

- 「ぬ」 →濡れた場所(で滑る)
- 「か」 →階段、段差(で踏み外す)
- 「づけ」 →かたづけられていないところ(でつまづく)

(図表 6)

宇都宮労働基準監督署「3A運動」

労働者の安全な歩行行動の定着化を図ることによる転倒災害の防止

- 「あせらない」 早くしなければと感じても苛立たない。あせていても足元確認をおろそかにしない
- 「あわてない」 突然の出来事にも落ち着いて行動する。あわてて走らない。
- 「あなどらない」 ちょっとした段差や濡れた床をあなどらない。転倒をあなどらず教育の対象とする。

(図表 7)

静岡労働局は「ぬかづけ運動」(図表 6)を展開しています。転倒リスクの高い場所(前出の3つのパターン)を覚えやすく表現しています。

宇都宮労働基準監督署は「3A運動」(図表 7)です。作業員の安全な歩行行動の定着化を図っています。

最後に、図表 1 について、もう少し考察してみます。「転びそうになった」という「転倒」のヒヤリ・ハットは、日常的に多く体験するため、元請会社に提出しやすいのかもしれませんが。

しかし、裏を返せば、労働災害の「墜落・転落」の件数が一番多いということから、高所での作業にあまり危険を感じていないので、ヒヤリ・ハットの提出が少ないと言えるかもしれません。

自社のデータを分析して、転倒災害の防止に努めてください。

〔出典〕

図表 1 「労働者死傷病報告」(平成30年確定値)により筆者が作成

図表 6 静岡労働局HPより筆者が要約作成

(注) 転倒リスクの高い箇所をわかりやすく「ぬかづけ」と主唱されたのは「日本転倒予防学会」

図表 7 栃木労働局HPより筆者が要約作成